

地中熱の最適化設計へ新型試験機

アグリクラスター P E C と共催で来月14、15日に公開テスト

新型のサーマルレスポンステスト (T R T) 試験機を。アグリクラスター (さいたま市中央区) はこのほど、地中熱利用システムの導入に当たり、当該土地の熱伝導率を計る T R T 試験機の独自製品「A G C - 03」型を開発した。T R T 業務を本格化させる P E C (埼玉県桶川市) と共催で、試験機による公開 T R T を来月14日と15日の両日、P E C 事務所で開催することも決定。普及が急速に進む地中熱利用の設計段階での適用に注目が集まる。

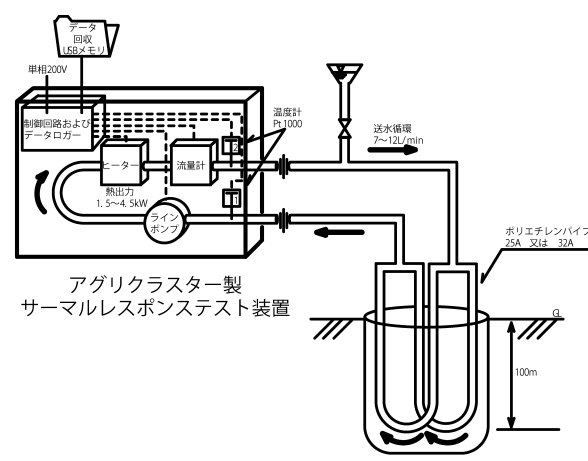
(名古屋悟)

水・土のエネルギーを生かす社会へ

▶▶28

T R T は、地中の熱伝導率を測定するもの。ヒーターとポンプをつなぎ、地中熱交換器を挿入する井戸 (ボアホール) に温水を循環させ、熱伝導率を推定するのが基本的な仕組みだ。地中熱を利用する浅い深度の地盤が岩盤であることが多く海外と異なり、未固結の砂や粘土であることが多い日本では、場所によって熱伝導率は大きく異なる。このため、地中熱利用の設計では、最適化に向けた現地で T R T 実施が重要で約48〜72時間でデータを集める。

T R T が容易に精度安定し低コスト



アグリクラスター製サーマルレスポンステスト装置

新型 T R T 試験機の仕組み

データを収集できる。操作性の高さを狙いタッチパネル式を採用している。関係研究機関の協力の下、装置の性能を確認している。同社では、解析結果に基づいて、ボアホール工事などを

基づくレポート作成もオプションサービスとして実施する予定で、解析の専門家がいなくても適切なレポートを発注者に提出することが可能になるとしている。公開テストでは、試験機の概要や T R T 解析結果の説明のほか、調査費や導入コスト、サービス内容なども紹介する。参加は無料で、両日ともに午前10時〜午後5時まで。解説などは随時行う。

アグリクラスターの福宮健司社長は、リース方式や解析レポートの価格などについても「公開テストの会場で聞いていただければ」と話している。会場 (桶川市加納872番地) は、車での来場も可能 (駐車スペース有)。公共交通機関利用の場合、J R 高崎線桶川駅東口からタクシー利用 (所要時間10分ほど、約1千円)。

詳細はアグリクラスター (048-8551-2655) まで。